

(来週の展望)

今週のマーケットは、週を通して続伸し日経平均・TOPIX・マザーズ・ジャスダックは週間で上昇しましたが、唯一東証2部だけが下落して終わっています。また、為替も対ドル・ユーロ共に円安へと振れ、米国株も週足一目均衡表を割れる寸前で切り返し、前回レポートで述べました期待が前面に出てくる方となっています。

しかしながら、実際のところはG20への期待よりもFRB議長による利上げ打ち止め示唆発言による金利の低下を好感した割合の方が大きいと思われる。

例年、11月末に向けて株価が上昇するのはアノマリーとなっており背景には米国での感謝祭明けでの商戦の発表数字が大きく伸びていることと日本での中間配当の再投資の時期に当たることが挙げられますが、今年もG20への期待とFRB議長発言によってアノマリーが継続しています。では、今年も年末相場はあるのでしょうか。

以前レポートで、株価は景気と企業業績で決まってくると書きました。それらに大きく負の影響を与える利上げという金融面の政策に先の発言によって一定の歯止めはかけたこととなります。

これに、保護主義の撤回が加われば確かに先行きに対しても明るさが台頭することになります。

(昨年同時期の日経平均日足チャート)



しかしながら、上記のように昨年は12月入り後に急落しており今年もG20の結果次第とはいえ注意が必要です。

ここで、東京市場の物色動向を見てみます。

電気・ガス業は今年の高値を更新する勢いで上昇しています。また、水産・農林業もかなり堅調な動きを続けています。物流の分野では陸運業は直近で上昇が鮮明ですが海運は急落した状態のままです。これは、荷動きが鈍っている中で原油安に伴ってガソリン安を反映したものとと言えます。人気のあるセクターでは情報通信業は派手に動いているように思えますが反発力は小さいままですし、商社に代表される卸売業も底這いとなっています。

これらから分かることは、所謂ディフェンシブ銘柄への資金シフトが鮮明になってきているということです。

東証1部 電気・ガス業 東証・大証-新興・他



東証1部 水産・農林業 東証・大証-新興・他



東証1部 海運業 東証・大証-新興・他



東証1部 陸運業 東証・大証-新興・他



東証1部 情報-通信業 東証・大証-新興・他



東証1部 卸売業 東証・大証-新興・他



(木材先物週足チャート)



これは、木材の先物価格ですが今年の動きは正にバブル崩壊といったものとなっています。木材の消費国では中国が世界 2 位となっていますが中国の景気鈍化と無縁ではないと思われます。また、過去の検証では木材先物が天井を打ってから 2 年以内にバブルが崩壊しています。（ドットコムバブル崩壊・住宅バブル崩壊）

以上の事から、今晚の米中首脳会談の結果で来週は急騰急落のどちらもあり得るわけですが、景気循環としては下降期に入りつつあり、前回レポートで述べた通りもはや金融政策ではなく財政政策が求められる段階と言えそうです。しかし、FRBによる利上げ打ち止め観測によって信用収縮につながるような金融危機は食い止められるかもしれません。

しかしながら、ブレグジットや原油安等リスク要因が散りばめられており日本のマーケットの場合、ソフトバンクの上場という最大の需給悪化要因が 1 2 月は控えていますから、米国発の急騰材料が出てきた場合は売り場探しと考えます。むしろ、中期的には仮想通過（暗号資産）に投資妙味がありそうです。

2018・12・1

K's インベストメント株式会社 小林克巳